

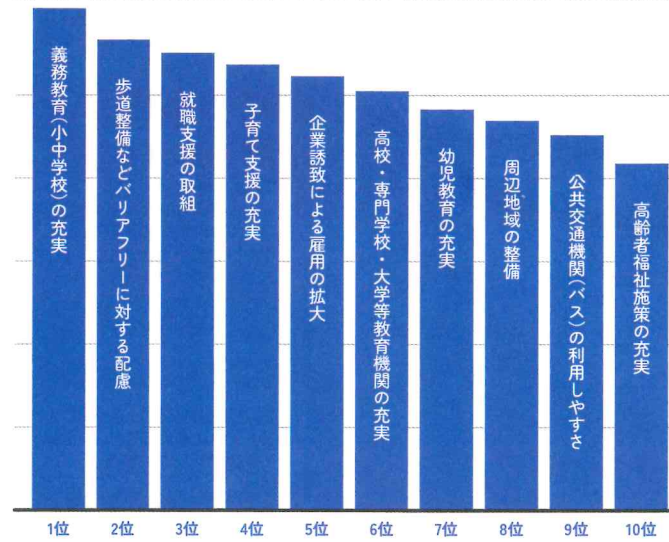


市民のニーズ

計画策定に反映しました。

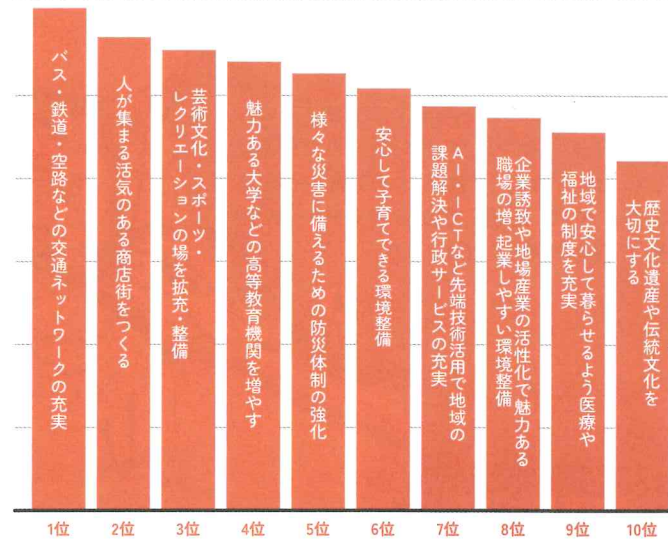
■ 市民のニーズ（市民満足度調査の結果から）

上位10位は、以下の結果となりました。



■ 高校生が思う今後のまちづくりに向けて重要だと思う取組

上位10位は、以下の結果となりました。



エリア別将来像を描くために

各地区に聞いた 2030に向けたまちづくりへの思い

市内全ての自治協会のみなさまから、お話を聞かせていただきました。



出雲市 総合振興計画

出雲 新話 2030

《まちづくりの将来像》

「出雲力」で夢★未来へつなげ
 誰もが笑顔になれるまち

「出雲力」で
 夢や希望を持ち活躍できるまち
 未来へつづく持続可能なまち
 多様性を尊重し、誰一人取り残さず共に生きるまち
 誰にも“ぴったり”な暮らしやすいまち
 出雲を訪れる人たちが何度も来たいと思うまち
 誰もが自然と笑顔になれるまちを
 めざします。



市長メッセージ

市政を「前へ」

出雲市長 飯塚 俊之 「出雲力」と経済・暮らしの好循環で、誰もが笑顔になれるまちへ

本市は、全国的な人口減少時代の中にあって、令和2年国勢調査において、山陰地方の都市の中で唯一、人口増加を果たし、可能性に満ちた活力あふれるまちと自負しています。これからも、出雲への愛着と誇りと自信をもって、環日本海の玄関口としての「宍道湖・中海圏域」を牽引し、元気な地方都市のトップランナーとして走り続けるために、新たな出雲市総合振興計画を策定しました。

今、本市を取り巻く状況は大きく変化しています。特に、新型コロナウイルス感染症は私たちのライフスタイルや価値観を大きく変えました。また、ロシアによるウクライナ侵攻をはじめとする激動の国際情勢など、不確実で、複雑・曖昧に変動する時代を私たちは生きています。このような状況だからこそ、平和を願い、足元をしっかりと固め、視野を広げ、国内外の動向に的確かつ迅速に対応し、出雲市政を前に進めていかなければなりません。

新たな総合振興計画は、脈々と受け継がれてきた歴史あるこの出雲の地において、未来を照らす道標となる、新たなストーリーであり、市民の皆さまと「ともに」作りあげていく「出雲新話2030」です。

まちづくりの将来像は、「『出雲力』で夢★未来へつなげ 誰もが笑顔になれるまち」としました。本市の強みである総合力、あらゆる力を「出雲力（いずもりょく）」と表現し、この「出雲力」をフル活用したまちづくりに取り組み、8年後、本市は、住む人、関わる人、誰もが笑顔になれるまちとなっています。

この将来像の実現に向けて、「みんなが活躍する」「地域の魅力を生かした」「持続可能な」まちづくりに取り組みます。出雲の未来を担う若者が夢を持てるまちとなり、今を生きる私達が、しっかりと次世代へバトンを渡したいと思います。

この基本構想に沿って、一つ一つの施策を着実に実践・実現する中で、人口17万人をキープし、地域経済の発展の礎となる「市内総生産（市内GDP）」をさらに引き上げ、市民の皆さまの暮らしの満足度が高まるという、経済と暮らしの好循環を生み出していきます。

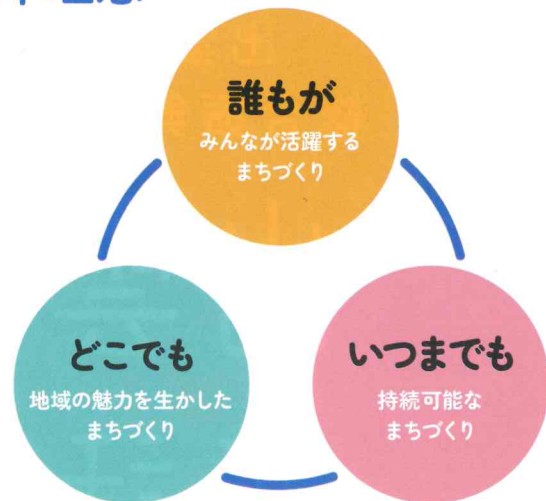
併せて、SDGsの17のゴールを常に意識しながら、グローバルな視点で、脱炭素社会やデジタル社会に対応し、「出雲力」を高め、まちづくりを「前へ」進める覚悟です。

終わりに、この基本構想の策定にあたり、出雲市総合計画審議会の委員の皆さまをはじめ、公聴会等において貴重なご意見を賜りました市民の皆さまに対して、心から感謝を申し上げます。

皆さま、ともに、新しい出雲のストーリーを作っていきましょう。

基本理念とSDGs

基本理念



出雲市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択された「国際社会における2030年までの開発目標」です。持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットで構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

出雲市では、こうした世界規模の目標を十分に踏まえ、総合振興計画の各施策、施策の推進に取り組んでいきます。

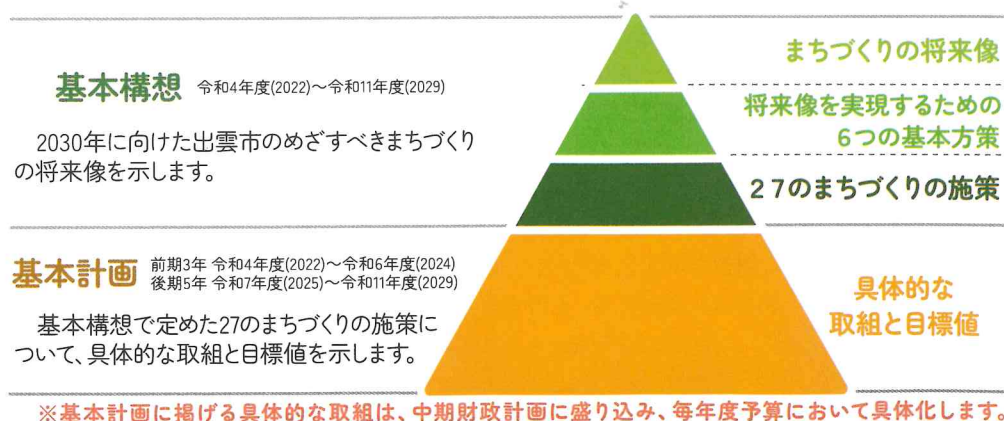


計画期間

計画の構成

出雲市総合振興計画「出雲新話 2030」は、「基本構想」と「基本計画」で構成しています。

8年 令和4年度（2022）～ 令和11年度（2029）



※基本計画に掲げる具体的な取組は、中期財政計画に盛り込み、毎年度予算において具体化します。

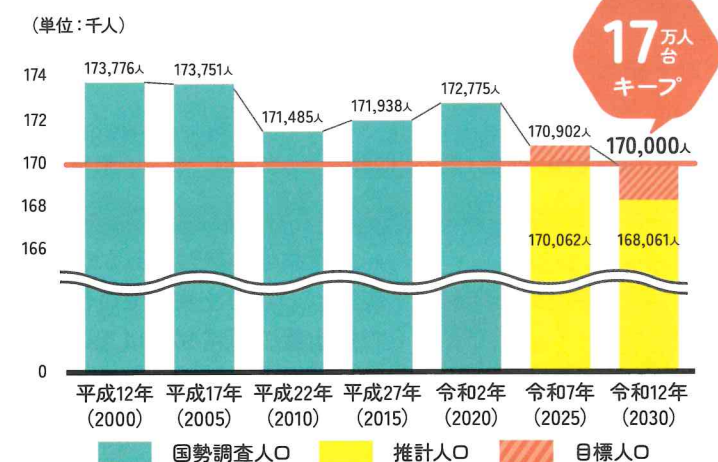
「出雲力」出雲にはこんな力があります



目標人口

17万人キープ

本市の令和12年(2030)の人口は、17万人を割り込み16万8千人になると推計していますが、本基本構想に掲げる施策を着実に実行することで、令和12年(2030)の目標人口17万人台キープをめざします。





基本方策

●市民の日常生活の場面やライフステージを意識した横断的な視点で、誰もが笑顔になれるまちの実現に向けた、次の6つの基本方策(柱)と目標を定めます。各基本方策の目標は今後8年間でチャレンジする数値目標を掲げます。

●SGDs(持続可能な開発目標)への取組を意識した視点も持ち、施策を推進します。
●まちづくりの各方策(取組)については、6つの基本方策を横断的に捉え、全部で27項目の施策で構成し、推進します。



新たな価値と働く場を創造する

まちづくりの施策

- 01 海・山・大地の恵みを生かす
- 02 “出雲”の「ブランド力」で価値を高める
- 03 地場企業が地域を支える
- 04 多種多様な企業立地を
- 05 「人財力(じんざいりょく)」で地域産業を“前へ”

チャレンジ

2000人

新規雇用創出(8年間)

就労の場の確保は、市民生活を支える最も重要な課題であり、「出雲力」の活力の源です。市民満足度調査のニーズ度においても、「就職支援の取組」と「企業誘致による雇用の拡大」が上位10項目に入っています。企業誘致や地場企業の振興、創業支援に積極的に取り組む一方で、福祉人材の確保や農福連携、高齢者の社会参加の場により、あらゆる産業への雇用機会の確保とともに、就職支援に取り組みます。今後8年間の新規雇用創出2,000人(年平均250人)をめざし、各種取組を行います。[令和3年度(2021)実績:268人]



ふるさと出雲の環境を守るとともに災害に備える

まちづくりの施策

- 06 誰もが「安全・安心」に暮らせるまちに
- 07 未来に向けた脱炭素社会へのチャレンジ

チャレンジ

46%

CO₂の排出量削減(8年後)

世界共通の課題である地球温暖化対策について、本市においても、令和32年(2050)二酸化炭素(CO₂)排出実質ゼロをめざします。令和12年(2030)までに、国が掲げる目標に準じてCO₂の排出量の削減46%以上[平成25年(2013)比]の達成に向け、再生可能エネルギーの導入・利用促進、省エネルギーの推進など各種施策に取り組めます。[令和元年(2019)時:平成25年(2013)比10.1%減]



あらゆる縁を結び交流を促進する

まちづくりの施策

- 08 期待(来たい)が膨らむ観光のまち出雲
- 09 「住みたい」、「住み続けたい」の縁結び
- 10 ヒト、モノ、コトを短時間でつなぐ
- 11 あのまち・このまち 出雲を結ぶ
- 12 いにしへの「財(たから)」を守り、活かす

チャレンジ

1億人

交流人口(8年間)

力強い地域経済の実現のため、出雲力の一つである、出雲の知名度を生かしたブランド力や、自然資源や独自の歴史・文化といった魅力を生かし、多くの人との縁を結び、交流を促進していきます。また、中海・宍道湖・大山圏域による広域連携等を通じて、交流を促進していきます。コロナ禍、またコロナ収束後において、今後8年間の交流人口(※)1億人(年平均1,250万人)をめざし各種取組を行います。[コロナ禍前の平成30年(2018)実績:1,162万人]

※交流人口:観光入込客数で数値化



生活基盤を整え日々の暮らしを支える

まちづくりの施策

- 13 「産みたい」「育てたい」を応援
- 14 ワーク・ライフ・バランスで自分らしい生き方を
- 15 いつまでも元気、ずっと現役で
- 16 誰もが大切にされる社会をめざして
- 17 ぬくもりのある福祉サービスを
- 18 地域特性を生かして安心な医療を
- 19 地域とともに持続可能な中山間地域を
- 20 出雲のインフラを整え「安心」を支える
- 21 デジタルの力で未来をデザイン

チャレンジ

2.1&1年

合計特殊出生率&健康寿命延伸(8年後)

子どもを生み育てやすい環境を整え、乳幼児期から高齢期まで住みやすいまちづくりに向けて、合計特殊出生率(1人の女性が産む子どもの平均数)上昇と健康寿命(65歳平均自立期間(※))延伸をめざします。

「出雲市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」の人口ビジョンにおける、本市がめざす令和12年(2030)の合計特殊出生率は2.1です。[令和2年(2020)の合計特殊出生率1.72]また、人生100年時代を迎える中で、健康づくり・介護予防に取り組める環境を整備するとともに、何歳になっても、役割、生きがいを持って地域や社会に関われるよう、様々な社会参加を促し、予防・健康づくりを進め、8年後[令和12年(2030)]には健康寿命が1年延伸することをめざします。[本市の平成23年(2011)~平成27年(2015)の65歳平均自立期間の平均値 男性:17.54年 女性:21.00年]なお、令和元年(2019)に策定された国の「健康寿命延伸プラン」において、国は令和22年(2040)までに健康寿命を3年以上延伸[平成28年(2016)比]することをめざしています。

※65歳平均自立期間:65歳以降、日常的に介護(要介護度2以上)を必要としないで、自立して生活ができる期間のこと。島根県も同じ指標を使用。



出雲力で ともに 育む

次世代を担う子どもたちや
地域を支える人を守り育てる

まちづくりの施策

- 22 家庭・地域・学校で育む出雲の教育を
- 23 人が地域を、地域が人を育てる

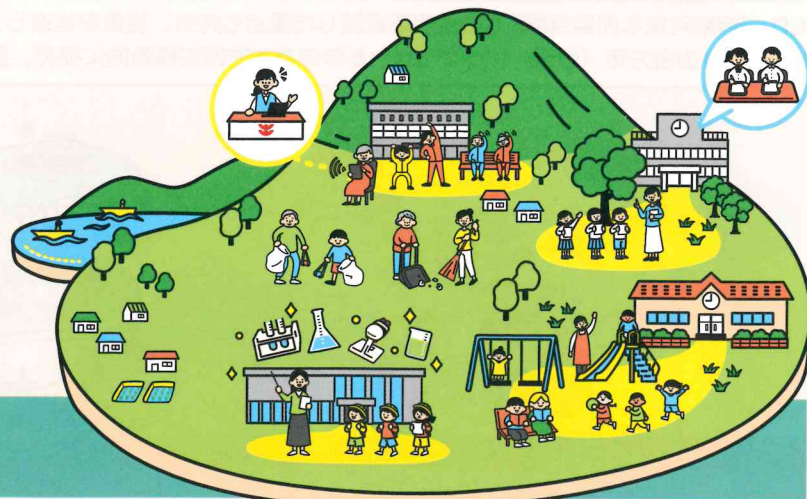
チャレンジ

85%

高校生が「出雲に愛着
や、魅力・誇りを感じる」と
答えた割合(8年後)

令和3年度(2021)に行った高校3年生を対象としたアンケート調査によれば、「出雲に愛着や魅力・誇りを感じる」は、「ある程度感じる」も含め、81.1%に達しました。これは、出雲で育まれた、地域、学校、市民の関わり成果であり、出雲に愛着や魅力・誇りを持つ若者を育てることは、定住志向にもつながります。

子どもたちが高校生までの成長過程において、ふるさとに貢献したいと思えるふるさと教育を進め、8年後[令和12年(2030)]には85%をめざします。



エリア別将来像

～めざすべき都市のかたち～

本市は、北部は島根半島、中央部は斐伊川と神戸川の
二大河川により形成された出雲平野、南部は中国山地で
形づくられ、海、山、川、湖、平野と多彩な自然に囲まれた都市です。

そこには、一定の人口が集積する大中小
の拠点が形成され、それぞれに特色ある
地区の魅力的な歴史や文化がつくられて
きました。

この、特色ある地区の魅力を生かすため、
人と人とのつながりや、デジタルの力も活用
して、それぞれの一定の人口が集積する拠点を
結び付け、連携しながらネットワークを
築き、都市の発展をめざします。

西の玄関エリア

海と湖と夕日の最高の
ロケーションを生かして、
高速道路の開通による
新たな人の流れを受け
止め、賑わいを生みま
ちづくり

交流人口・関係人口 増進エリア

豊かな自然や歴史文化を生かして、
地域内外の人と人とのつな
がりを創り、活力を生み出すま
ちづくり

東の玄関エリア

出雲縁結び空港、斐伊川インター
チェンジ、雲州平田駅エリアで国内
外の多くの観光客を受け入れ、
アクセスの良さを生かした、活気
あふれるまちづくり

東部交流エリア

木綿街道など、懐かしい街なみと
歴史・文化を生かして、ヒト・モノ・
コトが行きかうまちづくり

田園景観と住空間の 共存エリア

築地松や田園がおりなす風景と
文化を大切にのこし、誰もが
心地よく暮らせるまちづくり

中心市街地形成エリア

あらゆる都市機能の集積を
生かし、地域経済、医療・福祉、
行政の中心となって市内の
各拠点をつなぐまちづくり

●：コミュニティセンター ■：都市計画区域の用途地域



エリア別将来像

～地域経済の好循環を生む産業別の重点エリア～

力強い地域経済の実現のため、
各地域の特色ある資源を生かした産業
を重点産業として示しています。

重点産業の成長により、市民の生活
基盤を安定させるとともに、「若者の夢
がかなうまち」「選ばれるまち」としての
発展をめざします。

環境と産業のミックスアップ 環境配慮型産業 クリエイトエリア

豊富な森林資源や水産資源を
有効活用するとともに、多面的
機能を持つ中山間地農業を
振興し、自然環境を生かした
持続可能な産業の発展をめざ
します。
また、太陽光、風力などの再生
可能エネルギーを活用し、脱炭素
社会に向けた新たな環境産業
を創出します。
(再生可能エネルギー発電所
は、電源種別ごとに市内最大
施設のみ掲載)

新しい産業のカたちで未来を創る 農業“新”興エリア

基幹産業である農業の持続的
な発展をめざし、スマート農業
の推進や、ブランド化による
特産品の生産拡大・高付加
価値化を支援します。

地域経済の原動力 企業力パワーアップエリア

工業団地への多様な企業の進出に
向けた基盤整備を進めるとともに、
サテライトオフィスなどを活用し、若者
やUターン者の働く夢がかなう環境を
整えます。

市内観光はここから始まる 滞在型観光エリア

集客力の高い出雲大社
周辺を拠点に、多くの交流
人口を生み出し、観光客を
市内全域の魅力ある観光
資源に誘導することで、
周遊滞在型の観光産業と
しての成長を促します。

●：コミュニティセンター ■：都市計画区域の用途地域



出雲力で ともに 楽しむ

誰もが住んで楽しく
訪れて楽しい出雲をめざす

まちづくりの施策

- 24 芸術文化で豊かな出雲を
- 25 スポーツで元気な出雲を
- 26 誰もが「学びたい」を実現
- 27 出雲の魅力、発信します

チャレンジ

2200万人

生涯学習等施設利用者数
(8年間)

コロナ禍前の平成30年度(2018)に生涯学習等施設^(※)を利用した人は、年間延べ約268万人。
市民生活をより充実したものにするために、学び、楽しみ、人生をより豊かにするために、生涯
学習等を行う公共施設の利用者を8年間で2,200万人(年平均275万人)にすることをめざし
ます。

※生涯学習等施設：出雲市民会館等の市民文化施設、図書館等の社会教育施設、体育館等のスポーツ施設、コミュニティセンター

